

## 野付風蓮道立自然公園野付半島地区を対象とした エゾシカ (*Cervus nippon yesoensis*) 捕獲の試み

佐藤 瑞奈<sup>1)</sup>・石下 亜衣紗<sup>2)</sup>・佐藤 則夫<sup>3)</sup>  
中谷 正和<sup>3)</sup>・吉田 剛司<sup>1)</sup>

First attempt of Sika deer (*Cervus nippon yesoensis*) capturing with a corral trap  
in the Notsuke Peninsula of Notsukehuren Prefectural Natural Parks at eastern Hokkaido

Mizuna SATO<sup>1)</sup>, Aisa ISHIOROSHI<sup>2)</sup>, Norio SATO<sup>3)</sup>, Masakazu NAKAYA<sup>3)</sup> and Tsuyoshi YOSHIDA<sup>1)</sup>  
(Accepted 12 December 2014)

### はじめに

北海道ではエゾシカ (*Cervus nippon yesoensis* 以下、シカ) の個体数が増加しており、特に道東地域で個体数は急増している (梶 1995)。さらに国立公園等の狩猟圧のない鳥獣保護区を越冬地として高密度で利用している事例が多い (梶 2006)。野付風蓮道立自然公園野付半島地区は、特別天然記念物であるタンチョウ (*Grus japonensis*) やオジロワシ (*Haliaeetus albicilla*) の営巣地となっており野付半島特定動物生息地保護林にも指定されている。また、多くの水鳥が飛来することからラムサール条約登録湿地にも指定されている。現在、野付半島ではシカが高密度で越冬することが事前調査で確認されている。

これまでシカ捕獲が実施されなかった野付半島で初となる囲い罠による捕獲を試みた。道東地区では野付半島のような鳥獣保護地域でのシカの高密度化が問題となっており、地域での技術向上のためにも、本論では 2014 年 3 月に新たな捕獲の概要について記録する。

### 研究事業対象地

野付半島は、北海道東部別海町と標津町にまたがる野付風蓮道立自然公園の一部である (図 1)。全長約 26 km の砂嘴になった半島は、国指定の特別鳥獣保護区でもある。砂浜、干潟、草原、高層湿原、森

林と多様な環境が存在する半島は、2005 年にラムサール条約登録湿地に指定されている。

### 手 法

野付半島に生息する希少鳥類への影響を考慮して本捕獲事業では、銃器は使用しなかった。さらにオジロワシの営巣木から 1 km 以上を保つ地点を選択して囲い罠を設置した。またタンチョウの営巣への影響を考慮して実施した。捕獲期間は 2014 年 3 月～3 月末日までとした。罠の建設中から誘引を実施し、誘引餌にはビートバルブとヘイキューブを併用した。別海町観光開発公社職員による誘引作業は、毎回同じ服装で実施し、作業前に自動車のクラクションを鳴らし条件付けをした。餌付け期間は 2014 年 1 月 29 日～3 月 31 日まで実施した。罠は総面積 129.022 m<sup>2</sup> で、落とし扉には、(株)アイエスイーのまる三重 (みえ) ホカクンを使用した。捕獲個体は生体で搬出し斜里町の(株)知床エゾシカファームへと捕獲の翌日に運搬した。捕獲は複数のメス個体の捕獲を重視し、合計 5 頭以上で扉を落とした。また、オスが囲い罠に入った場合は極力扉を落とさず待機した。

### 結果と考察

3 月 3 日から捕獲を開始し計 8 回の捕獲を試みた。メス 20 頭、オス一尖 1 頭、仔 25 頭、合計 46 頭捕獲した (表 1)。また、捕獲期間に罠が暴風雪によ

<sup>1)</sup> 酪農学園大学大学院酪農学研究科野生動物保護管理学研究室

Laboratory of Wildlife Management, Graduate School of Dairy Science, Rakuno Gakuen University, Midorimachi 582, Bunkyoudai, Ebetsu, Hokkaido, 069-8501, Japan

<sup>2)</sup> 野付半島ネイチャーセンター・別海町観光開発公社

Notsuke Peninsula Nature Center, Betsukai-cho Tourism Development Public Corporation, 232, Odaitouminatocho, Betsukai-cho, Notsuke-gun, Hokkaido, 086-1643, Japan

<sup>3)</sup> 別海町役場

Betsukai town public office, 280, Betsukai Tokiwacho, Betsukai-cho, Notsuke-gun, Hokkaido, 086-0205, Japan

所属学会：日本哺乳類学

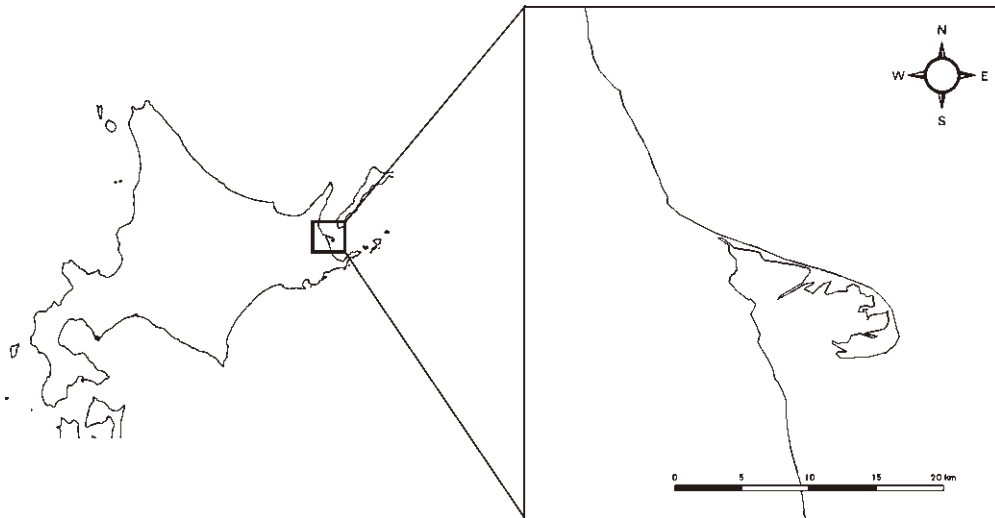


図1 調査地の野付半島の位置図

表1 野付半島で2014年に実施した囲い罠によるエゾシカ捕獲の成果

捕獲日	オス成獣	オス1尖	メス	仔	合計
2014/3/ 3	—	—	—	—	0
2014/3/10	—	1	4	3	8
2014/3/15	—	—	5	5	10
2014/3/23	—	—	2	4	6
2014/3/24	—	—	5	5	10
2014/3/25	—	—	1	4	5
2014/3/28	—	—	2	4	6
2014/3/31	—	—	1	—	1
合計	—	1	20	25	46

メスの捕獲を重視し囲い罠にオスが入った場合極力扉を落とさず待機した。餌付けは2014年1月29日～3月31日まで実施した。

る破損の発生と罠下部にできた隙間からシカが逃走した。短期間で捕獲を実施したため、捕獲期間の後半はシカの警戒心が高まり囲い罠の内部まで入りにくくなった。

野付半島は海浜域であるため天候が荒れると暴風となり罠が破損したのは、従来の罠では強度が不足したと考えられる。また、道央等の多雪地域と同様の設計のために、融雪と風により罠下部に30 cm程度の隙間ができてしまいシカが逃走した。捕獲したシカの収容スペースは天井が解放している設計であり、罠内部から外が見えるため収容したシカが天井から逃げようとしたことで、他の個体への踏みつけや閉鎖空間のストレスから毛を笔る行為を確認した。このことから、シカへのストレスが少なく強風になりやすい海浜域の使用に適した耐久性のある囲い罠を開発する必要がある。また、洞爺湖中島におけるシカの囲い罠捕獲の結果から、収容部を暗室にすることで安静化することができ（梶ほか 1991），



写真1 野付半島に設置したエゾシカ捕獲のための囲い罠入口付近

ソーラーパネルより電源を確保し、カメラにより内部の状況をWEBシステムで確認できる。落とし扉は遠隔作業により落下可能であり、本調査では、メス捕獲を重視した事象実験を実施した。



写真2 野付半島に設置したエゾシカ捕獲のための囲い罠内部

捕獲したシカは、写真右上に位置する生体個体の搬出用のスペースに作業員複数名で追い込んだ。



写真3 野付半島に設置したエゾシカ捕獲の囲い罠の下部にできた隙間

積雪期に罠を設置したことから、強風によって雪が飛び、さらに気温上昇によって融雪し隙間が発生したため、隙間からシカが逃走した。

シカへのストレスを軽減できると考えられる。

別海町と別海町観光開発公社、さらに大学研究機関が連携して、これまでシカ捕獲が実施されなかった野付半島で、初となる試みにより実証データを集約できたことは大きな成果となった。さらに現在、野付半島ではシカに Iridium 型 GPS 首輪を 4 個体に装着し行動を追跡している。これら個体は、季節移動せずに半島内にとどまっていることが確認できていることから、越冬期以外の季節に強い植生への被害を発生させていると予測ができる。この追跡データをもとに、最良となる捕獲方法を検討しつつ、今後は季節移動する個体についても移動ルートを解

明する必要がある。

## 謝 辞

野付半島ネイチャークラブ、(株)知床エゾシカファームの皆様には捕獲事業にご協力いただいた。ここに心より感謝申し上げる。

なお本論の成果の一部は日本哺乳類学会 2014 年度大会【ラムサール条約登録湿地でシカを獲る！——野付半島におけるエゾシカ囲い罠捕獲の実施と課題——】にて公表した。また本研究は、別海観光開発公社との共同研究【野付半島におけるエゾシカの個体数管理と行動追跡ならびに生物多様性保全モニタリングに関する研究】、および酪農学園大学 2104 年度学内共同研究【シカ・クマ保全の戦略的な広域連携と戦術的な管理手法の追完】の一部として実施した。

## 引用文献

- 梶 光一・小泉 透・太泰司紀之・坪田敏夫・鈴木正嗣. 1991. ニホンシカの大量捕獲方法の検討. 哺乳類科学, 30(2): 183-190.
- 梶 光一. 1995. 第 38 回シンポジウム記録「日本の哺乳類学の盲点をつく！オオカミ不在のエコロジー」, シカの爆発的増加——北海道の事例. 哺乳類科学, 35: 35-43.
- 梶 光一. 2006. 北海道の自然環境とエゾシカの歴史. エゾシカの保全と管理 梶 光一・宮木雅美・宇野裕之 編, pp. 3-8. 北海道大学出版会, 札幌.

## Abstract

The Sika deer (*Cervus nippon yesoensis*) population has been increasing in Notsuke peninsula, eastern region of Hokkaido. Even it was in short time period of time in March 2014, we captured 46 deer for the first time by a coral trap in this region.